

JP法の基本（株価弾性値）

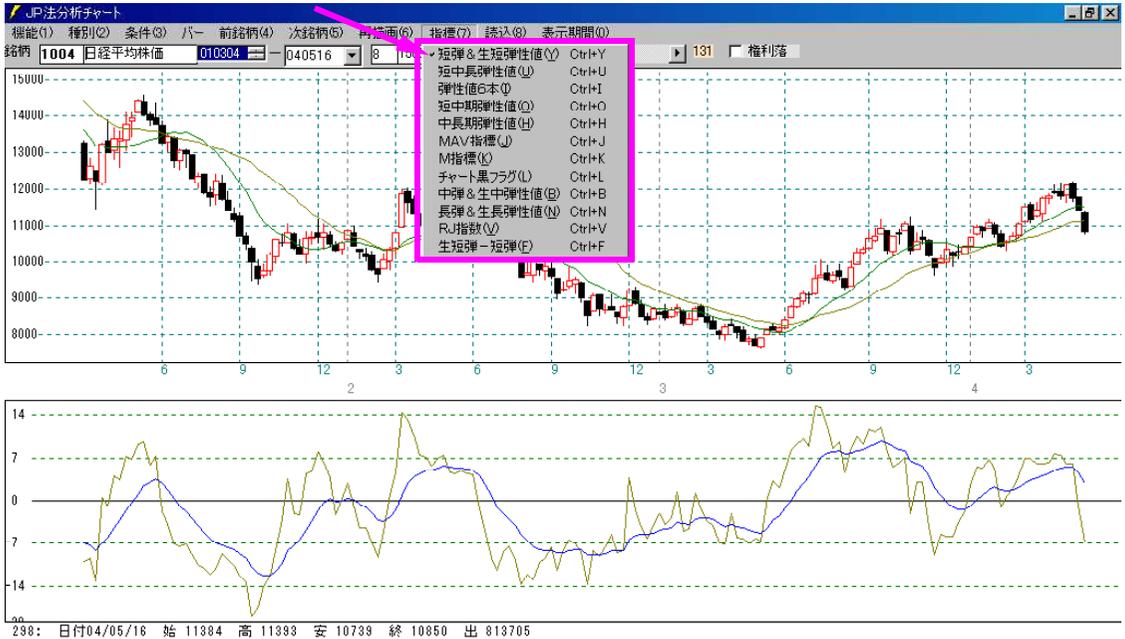
JP法の基本である株価弾性値について一番簡単な見方を解説したいと思います。

株価弾性値の意味などは、「投資術の革命」書籍をお読み下さい。

または、こちらに載っております。

<http://www.neuralnet.co.jp/kaisetsu/index.html>

ソフトは「JP分析メニュー」を使います。
ここにいくつか登録されています。(指標(7)の中)



■ 株価弾性値の種類と周期

種類は6つ、周期は13、26、50を使っています。周期は固定です。
便宜上、以下のような呼び名を使っています。

短期株価弾性値・・・周期13の株価弾性値 三ヶ月を見えています。
中期株価弾性値・・・周期26 六ヶ月
長期株価弾性値・・・周期50 1年

生○○弾性値

いわゆるカイリ度です。ギザギサしています。このギザギザの線では、上下にブレが大きく見にくいです。この線をスムージングという手法（移動平均みたいなもの）を使ってなめらかにした線が株価弾性値です。

生短期株価弾性値・・・短期株価弾性値をスムージングする前の値（カイリ度）
生中期株価弾性値・・・中期株価弾性値をスムージングする前の値
生長期株価弾性値・・・長期株価弾性値をスムージングする前の値

■見方の基本

週足で判断します。

生短期弾性値と短期弾性値の位置関係を見てみましょう。



黄色いギザギザが生短期弾性値です。(生短と略します。)

青いなめらかな線が短期弾性値です。(短弾と略します。)

簡易売買ポイント

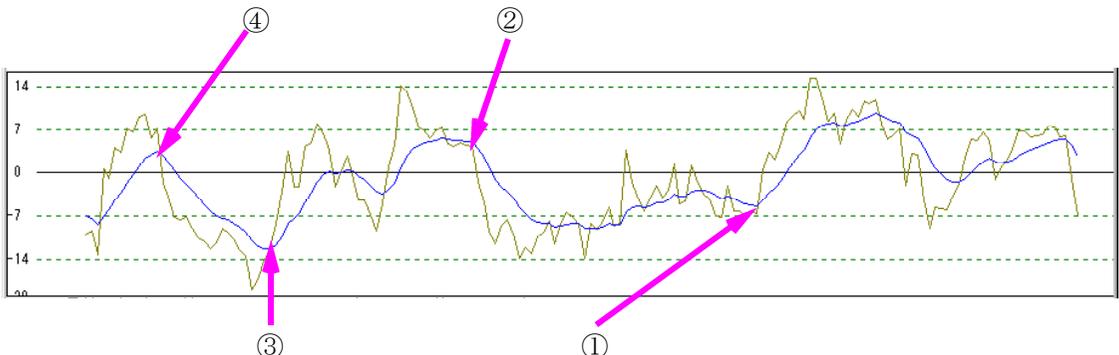
- ①短弾が0以下で下降から上昇に転じた（V字）ポイントを買いとします。
- ②短弾が0以上で上昇から下降に転じた（逆V字）ポイントを売りとします。

生短と短弾が0以下で

- ③生短が短弾を下から上に突き抜けた瞬間のポイントを買いとします。

生短と短弾が0以上で

- ④生短が短弾を上から下に突き抜けた瞬間のポイントを売りとします。



株価が急激に動くと、①と③、②と④は同時に起きます。

この4つのポイントは、かなり緩い売買ポイントなのでこの状態になった銘柄を即、売買するわけにはいきませんが基本の見方として覚えておいてください。

株価弾性値、生株価弾性値が0以下という事は、投資家の平均買いコストから今の状態がマイナスである、負けているという事です。

短期株価弾性値が0以下とは、三ヶ月間に買った投資家の平均買いコストから現状がマイナスという意味です。

-8という事は8%やられています。-10という事は10%やられています。

低ければ低いほど株価は下がっており、投資家は負けています。

つぶれない限りいつかは上昇に転じますが、投資家が「もう持っていられない」と投げってしまった時に買い出動をしようというのがJP法の基本です。

投げ終わった後にくる反騰の兆しがV字です。(下降から上昇のポイント)



マイナスの値が大きいポイントからの反騰を狙うのが望ましいです。

「投資術の革命」書籍の「第1の買い法則」は以下のように表現できます。

JP法分析シート 週定用 801番

コメント 投資術の革命 買法則①類似シート

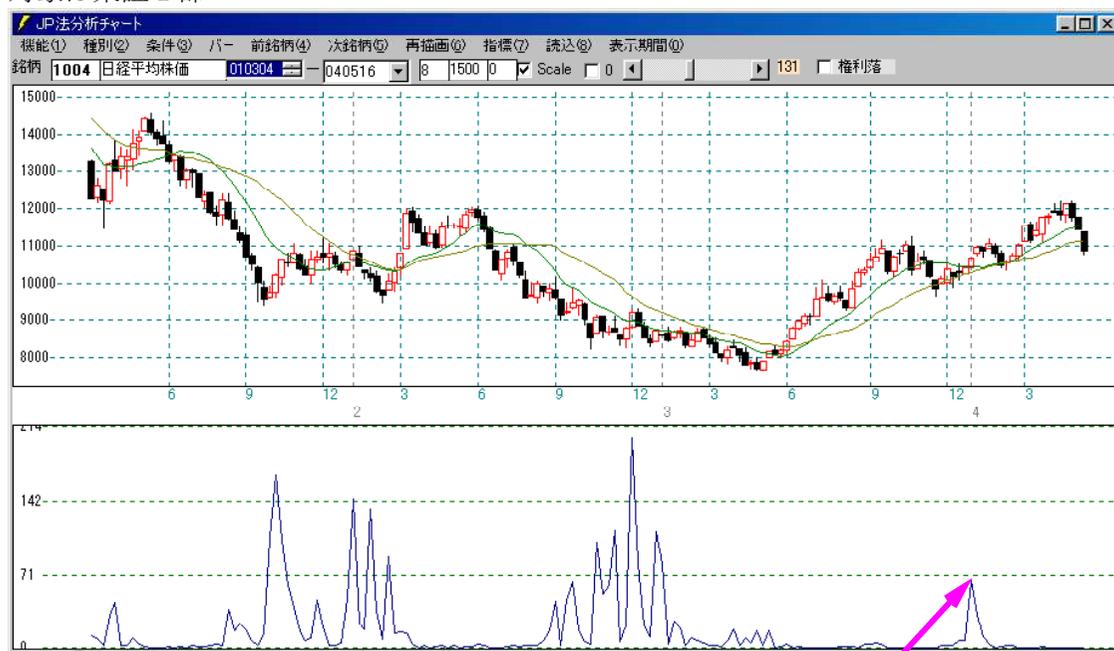
短期弾性値 以上	出来高倍率 以下	最高値・最安値 周期	出来高水準 周期
短期弾性値 以下 -12	最大出来高 周期	最高値/最安値 以上	出来高水準 以上
中期弾性値 以上	最大出来高か?	最高値/最安値 以下	短中M間カイリ 以上
中期弾性値 以下	短弾 向き 4	最安値/最高値 周期	MACD①(4-20) 向き
長期弾性値 以上	中弾 向き	最安値/最高値 以上	MACD②(5-20) 向き
長期弾性値 以下	長弾 向き	最安値/最安値 以下	短M/中M 位置
MAV指標 以上	MAV 向き	最高値 周期	生中弾/中弾 位置
MAV指標 以下	短期M 向き	最高値/安値 以上	生長弾/長弾 位置
短期M指標 以上	中期M 向き	最高値/安値 以下	出来高比率 以上
短期M指標 以下	生短弾 向き	最安値 周期	出来高比率 以下
中期M指標 以上	生中弾 向き	最安値/高値 以上	
中期M指標 以下	生中弾 向き	最安値/高値 以下	
短期弾性値 以上	生短弾 向き	長コスト/前日安値 以上	
短期弾性値 以下	短コスト 向き	長コスト/前日安値 以下	
生短弾性値 以上	長コスト 向き	長コスト/前日高値 以上	
生中弾性値 以上	短/長コスト 位置	長コスト/前日高値 以下	
生中弾性値 以下	短コスト上・下抜け	生短弾/短弾 位置	
生短弾性値 以上	長コスト上・下抜け	終値/高値 以上	
生短弾性値 以下	短長DC後日柄 以上	終値/高値 以下	
最安値 周期	短長DC後日柄 以下	終値/安値 以上	
最安値比率 以上	短長GC後日柄 以上	終値/安値 以下	
最安値比率 以下	短長GC後日柄 以下	新値 周期	
最安値日柄 以上	短弾/中弾 位置	安値更新本数 以上	
最安値日柄 以下	中弾/長弾 位置	安値更新本数 以下	
最高値 周期	短弾/長弾 位置	高値更新本数 以上	
最高値比率 以上	陽線・陰線?	高値更新本数 以下	
最高値比率 以下	高値切り上・下がり	高値更新本数 以上	
最高値日柄 以上	安値切り上・下がり	足取り・5本設定	
最高値日柄 以下	RJ指数 以上	ハイ・ローバンド 周期	
出来高倍率 周期	RJ指数 以下	ハイ・ローバンド 向き	
出来高倍率 以上	RJ指数 向き	短中M間カイリ 以下	

印刷 変更 初期化 保存 一覧表 CSV 取込 一括 白

三ヶ月間の投資家の平均買いコストから現状が12%以上やられていて、反騰の兆しが
見えた銘柄を選び出すシートといえます。

このシートを「合格数検索」にかけて結果を見てみます。
合格数検索の意味、表示方法はこちらに載っております。
<http://www.neuralnet.co.jp/jpsoft/jp04.html>

対象は東証1部



全てのポイントにピタッと当てはまる訳ではありません。最近では04 / 01 / 04に合格した銘柄が多かったです。

■その他の見方の基本 買いの場合

短弾が0以上で上昇中の場合

持ち株は持続、新規買いは見送り。

短弾が0以上でV字の場合

大勢が上昇中であれば新規買いとなりますが、0以下V字よりはリスクが伴います。0以上という事は三ヶ月間の投資家の平均買いコストが現状でプラス、儲かっているといえます。株価でいうとさらに高値を更新してこないと儲かるポジションではありません。

短弾が0以下で下降中の場合

持ち株は手持ちにない状態が望ましいです。

逆張りの新規買いもありますが、-15以下などさらに深く突っ込んだ時がよいでしょう。

短弾が0以下で逆Vの場合

見送りです。どこまで下がるか見極めたい所です。

J P法ソフトを使い慣れていない方の参考になれば幸いです。
ご不明な点は富士栄までどうぞ。 support@neuralnet.co.jp